

JILPT 調査シリーズ

No.170

2017年3月

# 非正規労働者の組織化とその効果 —アンケート調査による分析—

The Japan Institute  
for  
Labour Policy and Training

独立行政法人 労働政策研究・研修機構



# 非正規労働者の組織化とその効果 —アンケート調査による分析—

独立行政法人 労働政策研究・研修機構

The Japan Institute for Labour Policy and Training

## ま え が き

パートタイム労働者の推定組織率は、1990年代から緩やかな上昇傾向を続けてきた。直近（平成28年度）の労使関係総合調査（労働組合基礎調査）によれば、パートタイム労働者の推定組織率は、前年の7.0%から7.5%に上昇した。また、全労働組合員に占めるパートタイム組合員の割合は、前年から1%増加し、11.4%となった。パートタイム労働者を含む、非正規労働者の組織化が進められ、発言機会が確保されつつあると言える。

そのうえで重要なことは、非正規労働者に与えられた発言機会がどのように活用されているかということである。言い換えれば、非正規労働者を組織化した労働組合が、新たに組合員となった非正規労働者のために、どのような取組を行い得るか、組織化の結果として、どのような成果が得られたかということである。

労働政策研究・研修機構では、非正規労働者の組織化と労働組合機能に関する研究において、日本全国の労働組合を対象に、非正規労働者の処遇改善の実態に関するアンケート調査を実施した。本調査シリーズは、このアンケート調査の結果をまとめたものである。調査にご協力頂いた労働組合関係者の皆様に、この場を借りて、お礼を申し上げる。

本調査シリーズの分析結果が、多くの人に活用され、各方面における政策議論に貢献することができれば幸いである。

2017年3月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構  
理事長 菅野和夫

## 執筆担当者

氏名	所属	執筆箇所
まえうら 前浦 穂高	労働政策研究・研修機構 副主任研究員	第Ⅰ部 1・2章 第Ⅱ部付属統計表 の作成
なかの 中野 さとし 諭	労働政策研究・研修機構 副主任研究員	第Ⅰ部 補章

## その他の研究参加者

あおき 青木 宏之	香川大学経済学部 教授	調査票の設計
やまぐち 山口 るい 塁	労働政策研究・研修機構 臨時研究協力員	調査票の設計 データクリーニング
こまた 古俣 せいじ 誠司	労働政策研究・研修機構 臨時研究協力員	データクリーニング 第Ⅱ部付属統計表 の作成

# 目 次

## 第 I 部 調査概要

### 第 1 章 調査の目的と方法

第 1 節 調査の目的	1
第 2 節 調査方法	3

### 第 2 章 調査結果の概要

第 1 節 データの性格	5
第 2 節 組合の概要と非正規労働者の属性	6
第 3 節 非正規労働者の組織化の背景	17
第 4 節 非正規労働者の組織化後の取組	27
第 5 節 非正規労働者の処遇改善・組織化効果	30
第 6 節 均衡処遇実現の可能性	34
第 7 節 まとめ	36
補論	41

### 補章 非正規労働者の組織化による非正規労働者の処遇改善効果の暫定的評価

第 1 節 はじめに	44
第 2 節 分析方法	45
第 3 節 データ	46
第 4 節 推定結果	48
第 5 節 おわりに	55
補論 Radius matching および Kernel matching による ATT の推定結果	58

## 第 II 部 付属資料

資料 調査票	61
付属統計表	73